



造園家 田中俊光  
(株ナインスケッチ代表)

## 外構の現場で『大地の再生』を施工してみた！

Vol. 8

今回は、外構現場で『大地の再生』視  
点を取り入れた施工例を紹介したいと思  
います（写真1）。

現場は、安倍川の東に位置する静岡市  
葵区北安東。西には賤機山、北には竜爪  
山を構える平地になります。それらの山  
に囲まれ、山から流れる水が豊富な地域  
になります。宅地開発が進む地ですが、  
もう少し東に行くともまだ田んぼや畑が

残っています。

周辺には整備されてしまっていますが  
水路が基盤の目のように張り巡らされて  
いて、この現場の敷地内は井戸水が自噴  
もしていて水が豊富な地域になります。

お施主様のご要望は、車1台を止めた  
い、四季を感じられる植栽、そして自噴  
している井戸水を活かした魚など飼える  
池が欲しいとのことでした。

敷地は、間口5.5mの狭小地で上記の要  
望をクリアするには、スペースが少なく  
感じます。そこで、まずは車の配置を道  
路に対して斜めに駐車することにしまし  
た。すると手前角に三角のスペースが生  
まれ、植栽帯にすることができました。

しかしまだまだ植栽スペースが足り  
ず、かつ、池とアプローチも確保しなけ  
ればいけません。生活上、絶対に必要



写真1 『大地の再生』を施工した現場



写真2 アプローチの下に配置した池

となるアプローチを  
しっかりと確保しよ  
うとすると、池は小  
さくなってしまいま  
す。そこで、アプロ  
ーチの下に池を配置す  
るようにし、スペー  
スを共用することに  
しました（写真2）。

あとは、「どこに植  
栽を配置すれば、建物が緑に包まれる存  
まいになるか」、「緑の間を通り抜ける心  
地よいアプローチになるか」、「視覚的に  
どこに緑があれば目隠しやアイスポット  
として効果的か」などを総合的に考え  
てプランニングしました。

次に考えていかなければいけないの  
が、土中の水脈環境です。これだけ水が  
豊富な地域ですから水を止めれば環境が  
悪化していきます。水が止まれば空気も  
止まり、土中では酸欠状態になり土はグ  
ライ化が進み微生物や小動物も住めない  
環境になり、植物の根も伸びることがで  
きなくなり、木々は傷み病害虫にも対抗  
できなくなります。すぐに負の連鎖に  
陥ってしまうのです。

そのためには、敷地内の水と空気の循  
環をしっかりと整えてあげる必要があります。  
ただし今回は、それに反して駐車  
スペースやアプローチ、池の止水にもコ  
ンクリートを使用しました。

### 連載の目的

執筆者の静岡県浜松市の造園  
家・田中俊光さんは、長い間、  
造園・エクステリアと建築、ま  
ちづくりの融合を考えた「空間  
づくり」を実践してきた方です。  
田中さんの作る「雑木の庭」  
は、単に鑑賞する場所ではあり  
ません。その場にいると、不  
思議と「人を快適にさせる」空間  
でもあります。

しかし、中には、どうしても  
植栽が枯れてしまう場所もあり  
ます。どうしてなのか？田中  
さんは現状に満足しませんでし  
た。その中で「大地の再生」と  
いう考え方に出会いました。そ  
して探求を続けていくうちに、  
日本の住宅のほとんどが、雑木  
が枯れてしまう酸欠の土壌に  
なっているのでは？という疑問  
を抱くようになりました。

果たして、現在の住宅業界、  
そして造園・エクステリア業界  
に、そうしたメッセージが受け  
入れられるのか。少しでも快適  
空間の創造に貢献できる業界に  
していければという思いで、新  
しく連載を引き受けて頂きまし  
た。

ぜひとも、この連載を通じ  
て、これからの日本の国土のあり  
方について、造園・エクステ  
リアの観点から貢献出来ること  
を一緒に考えて頂ければ嬉しい  
です。

著者プロフィール

田中俊光 (たなか・としみつ) 1979年東京都生まれ。

2002年、日本大学生物資源科学部卒業。大手住宅メーカーのグループ会社で外構造園専門部門に勤務し、転職後は造園・外構に加え住宅のプランニングも手掛ける。2013年3月に独立し(株)ナインスケッチを設立。雑木の庭をはじめ、エクステリア・外構のプランニング・施工管理に携わる。主な受賞歴：2011年、「ユニゾン フォトコンテスト 2011」ファサードガーデン部門ゴールド賞受賞、2014年、「浜名湖花博庭園コンテスト」浜松市長賞受賞、2014年「第2回ブロックガレージデザインコンペ」入賞、2017年、三協アルミ「エクステリアデザインコンテスト 2017」ファサード部門 ゴールド賞受賞。資格：一級造園施工管理技士、一級土木施工管理技士、エクステリアプランナー 1級、二級建築士。

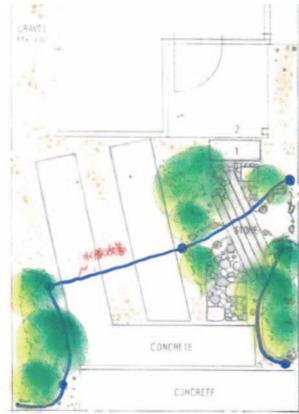


図1 通気浸透水脈改善の経路



写真3



写真4

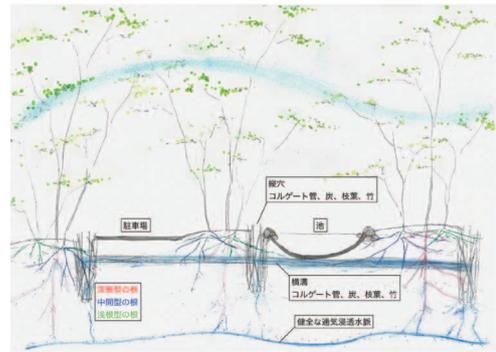
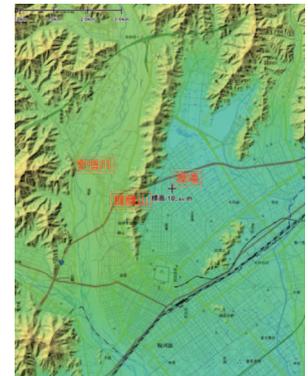


図2 駐車スペースのコンクリートの下を横断させた植栽の島同士を繋げるように溝掘りし、コルゲート管と炭や竹、枝葉などの有機物を施しながら繋ぐことで、通気浸透水脈改善を図る



静岡市葵区北安東の地形図

コンクリートは水と空気を遮断してしまう材料ですが、今の生活には欠かせないものです。したがって、それらを完全否定するのではなく、使うなら大地に負荷をかけた分ケアをすればいいと思います。

図1、2や写真3、4のように、池の底より下と、さらに駐車スペースのコンクリートの下を横断させた植栽の島同士を繋げるように溝掘りし、コルゲート管と炭や竹、枝葉などの有機物を施しながら繋いでいきます。

これを施せば、池や駐車スペースのコンクリートで水と空気の通り道を遮断せずに地中で繋がるができます。植物

自身も空気を求めて根を伸ばすので健康に生育してくれます。

植栽の仕方は、できれば1本単位で植え付けるのではなく、階層的にいろんな樹種を密植するようにします。木によって根の張り方は様々です。深く根を伸ばす樹種や浅く広く伸ばす樹種もあります。木の根が空気と水を通す媒体となってくれるので、地中で根を一様に広げること地中に空気を通しやすくしてくれます。

いずれは、有機物は腐り土に返っていきませんが、その頃には水脈改善したところを中心に、敷地全体に植物の根が張り菌糸とネットワークを組み込み地中の空気と水の通り道を確保してくれます。

地中の空気の循環が良くなれば、大気圧が常に掛かり地中の空気を補填することによって地上の空気の流れも良くなります。そうすれば人にとっても心地よい空気感を感じられることになると思います。

目に見えない空気をデザインし、植物

の力を借りることで、人にとっても心地よく感じられる空間に変わってきます。人と植物が空気を通して一体になることができると思います。

住まいの提案は建築本体だけではありません。外まわり、特に緑の力を借りることで心地よい住まいが実現すると思います。建材だけでは得られない五感に感じるものが自然の中には溢れています。LEDの光より、木漏れ日の方が心地よいですね？ エアコンの風より、木々の間を抜ける風の方が心地よいと思いませんか？ 人都合でつくる空間づくりより、土や木々が息づける環境をつくること、結局は人にとっても心地よい空間になるのだと思います。

**土や木々が息づける環境  
をつくることで、結局は  
人にとっても心地よい空間  
となる**